

# 万協フロー TEJタイプ 施工要領書

## 1.はじめに

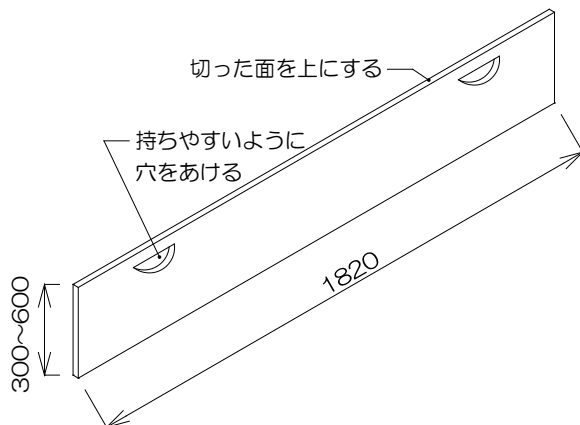
このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。  
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために  
本書をよく読み、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

## 2.施工工具一覧

- 電動ノコギリ（丸ノコ）
- ドライバー（+）
- インパクトドライバー（ビス留めの場合）
- 釘打機（コンプレッサー）（釘留めの場合）
- 水平器
- 水糸
- レーザー水平器
- スケール
- カッター
- 定規（下図参照）※1
- すきまゲージ（下図参照）※2
- ほうき
- ちりとり
- スクレイパー

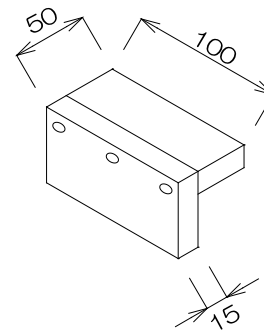
### ※1 定規

パーティクルボードを半分に切って作ります。



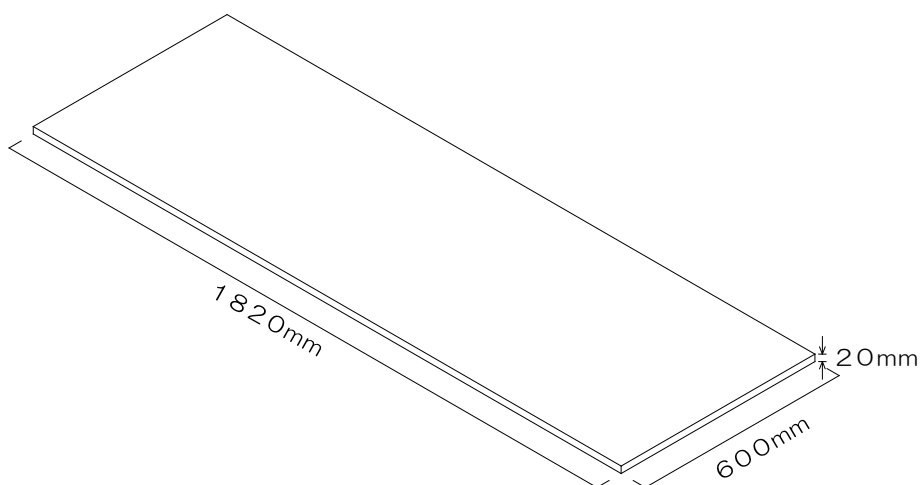
### ※2 すきまゲージ

厚さ 15mm の合板または木材で 4  
個以上作ります。



### 3.製品仕様

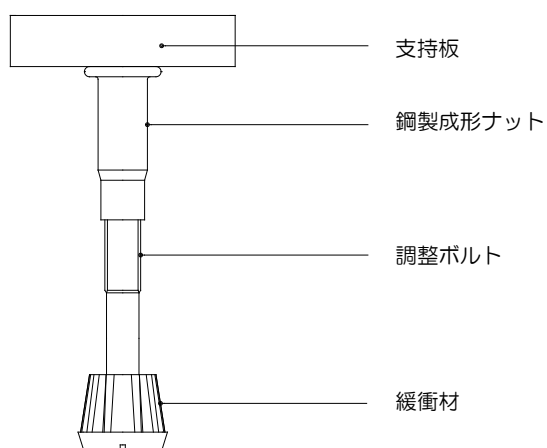
#### ①床パネル（パーティクルボード）



寸法：1820mm×600mm×厚さ20mm

**注意** 万協指定の床パネル（パーティクルボード）を使用してください。  
床パネルは濡らさないで下さい。また、湿気が多い場所に長期間放置しないでください。  
直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。  
床パネルを仮置き・養生する際は、端太角（3本以上を床パネル短手方向に平行に敷く）  
の上に合板等を敷いてから養生し、反りの防止と材料が濡れないように管理してください。

#### ②支持脚の構成（TEJ型）



### ③接着剤（同梱）

中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使用します。  
冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

**注意** 万協フローア指定の接着剤をご使用ください。

**注意** 接着剤のラベルに書かれている注意事項をよく読んでご使用ください。

**注意** 標準入数の半数以下のご注文の場合、同梱されませんので接着剤を別途購入してください。



### ④ビス（別売 市販品）

床パネルと支持脚の固定には、ビスを使用します。

[床パネル固定用]

|                              |
|------------------------------|
| コーススレッド半ねじフレキ付<br>約(φ)4×38mm |
|------------------------------|

合板の固定にはビスまたは釘を使用します。

[合板固定用]

| 合板 (mm) | コーススレッド (mm) | スクリーネイル (mm) |
|---------|--------------|--------------|
| 厚12     | 25           | 32           |

### ⑤合板

JAS規格製品のF☆☆☆☆をご使用ください。

(厚) 12mm×(幅) 910mm×(長さ) 1820mm

## 4. 施工手順

### 4.1 施工を始める前に

- ・床スラブ面にゴミ、埃がないように清掃します。
- ・床高に合った支持脚であるか確認します。
- ・床パネルの枚数を確認します。
- ・水上部や配管交差部で床パネルに当たらないか、床下配管の位置を確認します。
- ・フローリングの張り方向を確認します (合板とフローリングは床パネルと直交にします)。

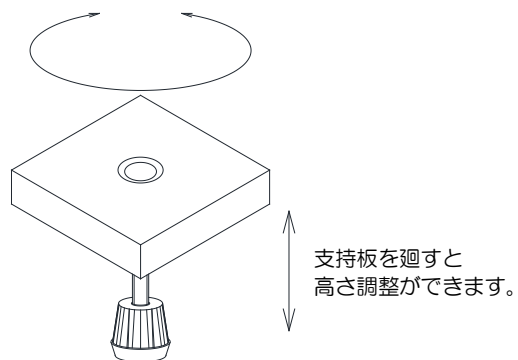
**注意** スラブがぬれている場所、水たまりがある場所は、乾かしてから施工してください。

### 4.2 床パネルの敷設

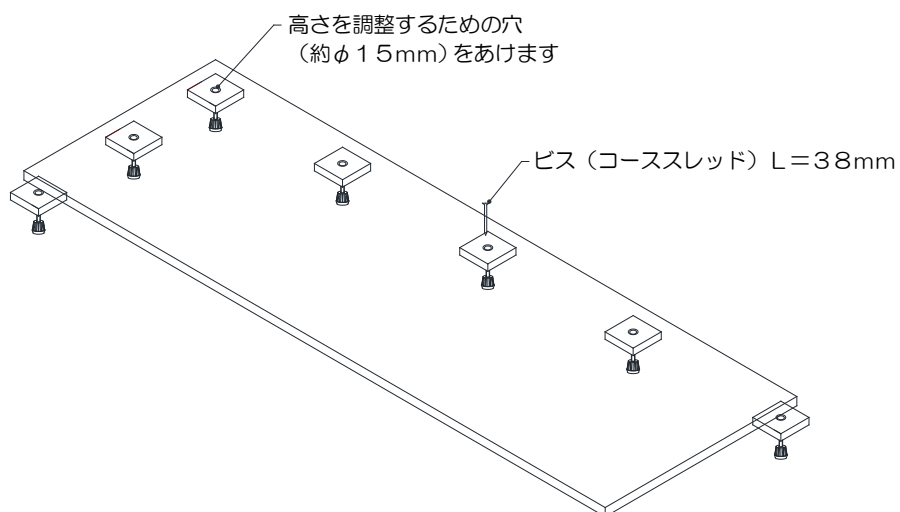
①床パネルの反りを確認します。

床パネルに反りがある場合には、膨らんでいる面が上になるように施工します。反りの測定は床パネルを立てて測定します。

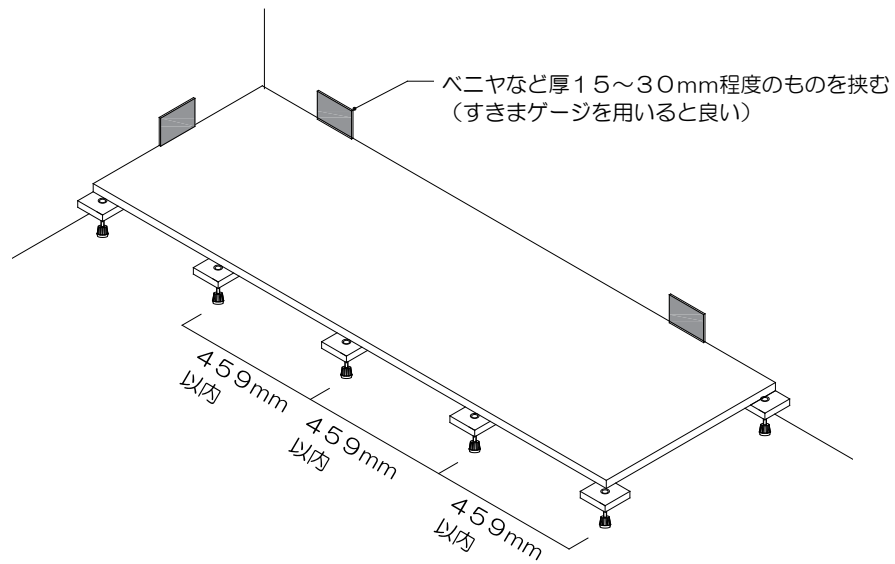
②支持板を廻し、支持脚を適当な高さに調整します。



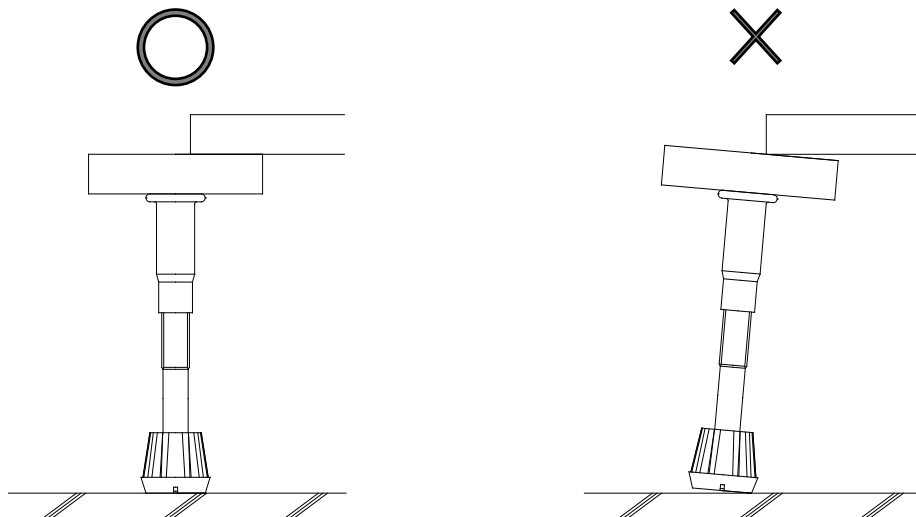
③壁際は約308mm以内（床パネル短辺）および約459mm以内（床パネル長辺）で支持脚を取り付けます。床パネルに支持脚のボルト調整用穴（約 $\phi 15$ mm）をあけます。次に支持脚を床パネルにビスで固定します。出入口、非常口、階段およびステージ前は300mmピッチとします。



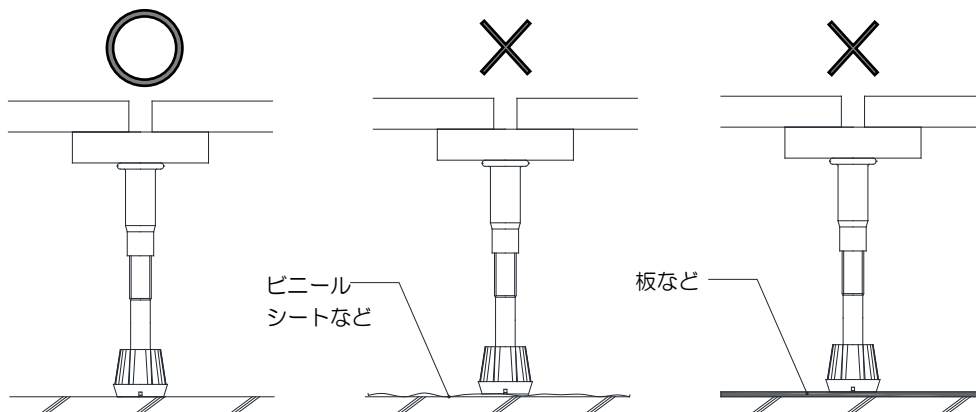
床パネルと壁が接触すると床衝撃音遮断性能の低下や床鳴りの原因になるので必ずすきまを15～30mm程度あけます。（すきまゲージを用いると良い）



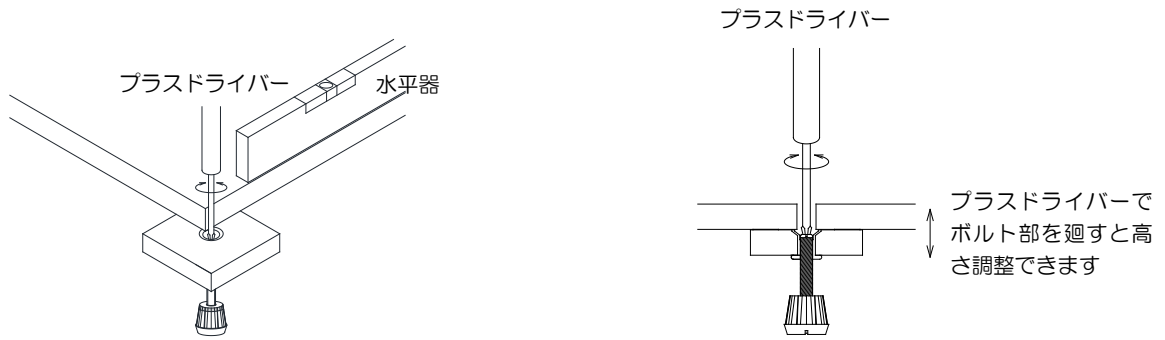
**注意** 支持脚は床パネルにしっかり固定してください。支持板と床パネルの間に隙間があると床鳴りの原因になります。



**注意** 支持脚の下には、物をはさまないでください。床鳴りなどの原因になることがあります。支持脚は、直接床スラブに接するようにします。



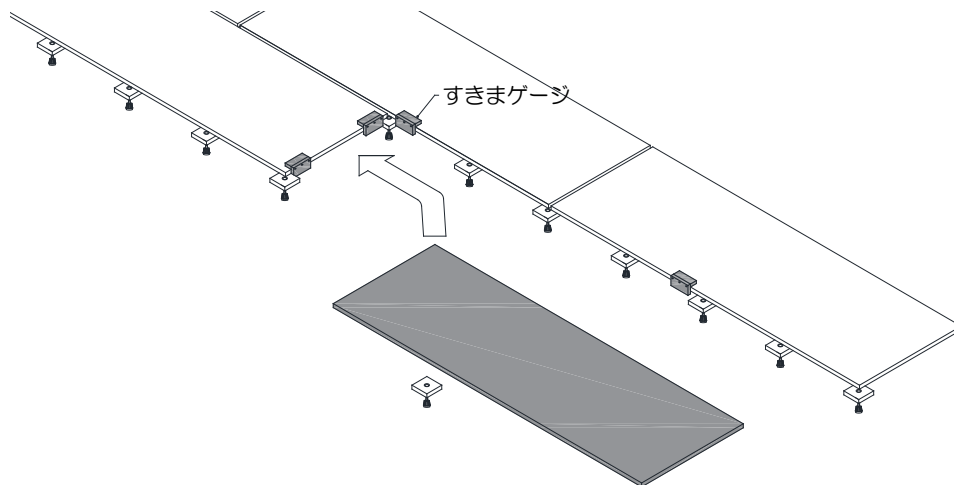
④床パネルを1枚張るごとに、水平器またはレーザー水平器で床パネルを水平にします。



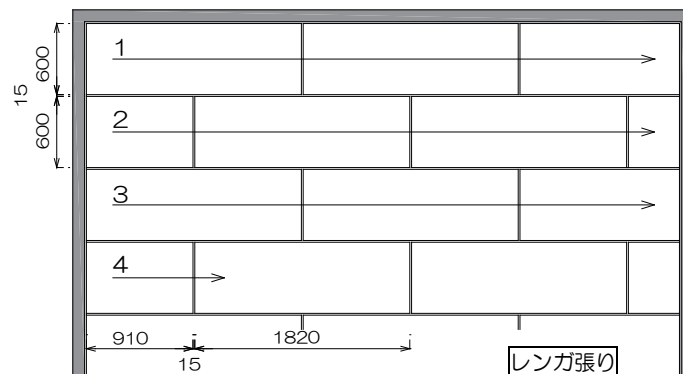
**注意** 製造工程上、ボルト頭部の十字溝に一部変形が見られるものがありますが、不良品ではありません。

**注意** インパクトドライバーや電動工具等でレベル調整を行うと、過度な負荷がかかり、ネジ山がつぶれる恐れがありますのでご注意ください。

⑤床パネルはレンガ張りとし、床パネル同士の目地は約15mmあけます。このとき隙間ゲージを用いると早く正確に施工できます。



床パネルを張る順番は、下図（矢印）の通りです。張り方はレンガ張りです



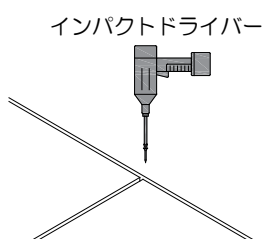
**注意** 床パネルの最小寸法は200mm以上とし、張り仕舞いで、床パネルの幅が200mm未満になる場合は、1枚手前の床パネルの幅を300mmなどとし、張り仕舞いが200mm未満とならないように調整してください。

**注意** 床パネルの表裏面に、キズ（ノコギリの切れ目など）のあるものは、使用しないでください。

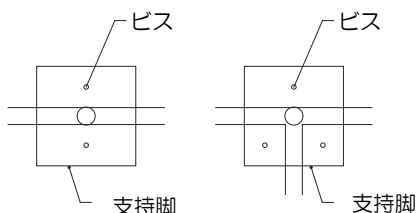
**注意** パーチの長辺が910mm以下となる狭小空間の場合、レンガ張りとする必要はありません。

### 4.3 床パネルの固定

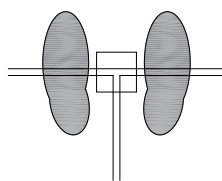
パーチ上からコーススレッド（長さ38mm）を打ち支持脚とパーチを固定します。



支持脚のビス固定位置は下図の箇所です。



支持脚に均等に体重をかけて固定します。



**注意** ビスの頭がパーチ上に出ていると床鳴りの原因になりますので、確実にビスの頭がパーチにめり込むように施工してください。

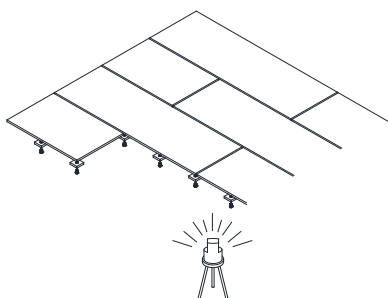
**参考** 目地部分に養生テープを貼ると、擦れによる床鳴り防止に有効です。

## 4.4 レベルの再調整

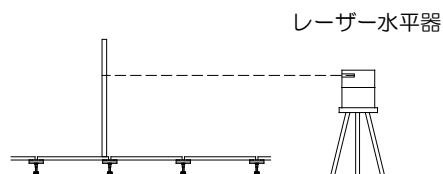
### レーザー水平器の場合

レーザー水平器を設置します。

かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを廻し、同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。



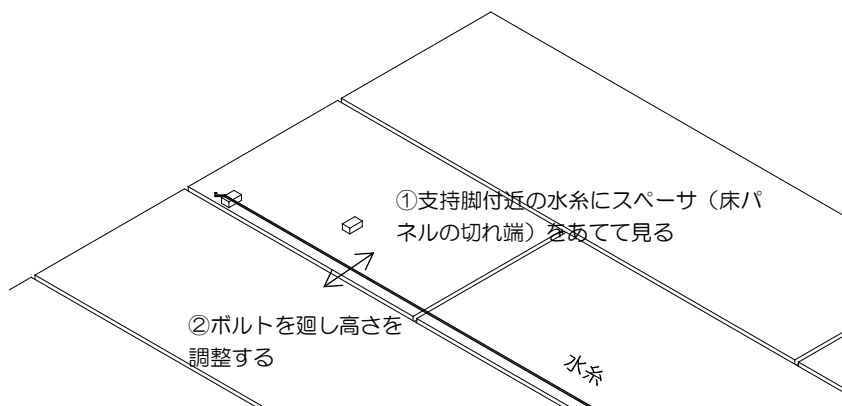
レーザー水平器



レーザー水平器

### 水系・定規の場合

3列おきに水系を張り、パーチ長辺方向のレベルを調整します。

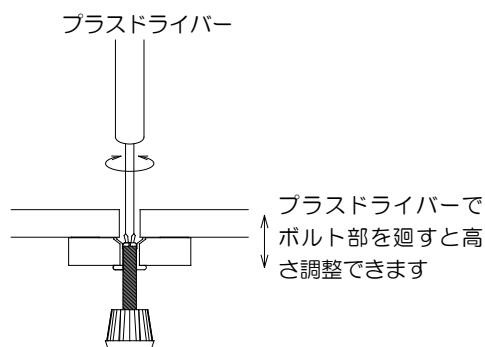
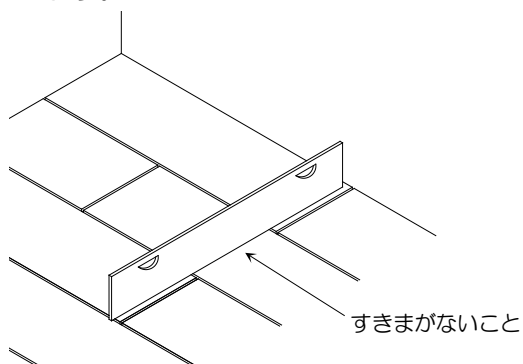


水系はパーチの切れ端（以下、「スペーサ」という）を挟んで強く張ります。

このとき、スペーサは同じ高さになるように使用します。

別のスペーサを水系とパーチの間に置き、スペーサと水系が軽く触れる高さに支持脚を調整します。

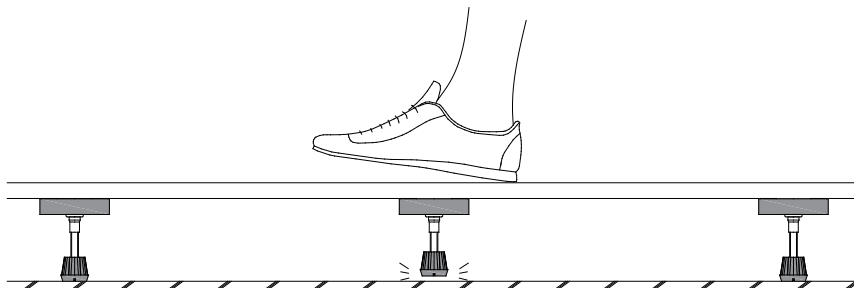
パーチ短辺方向のレベルを調整は、定規を下図のように置いて、すきまが出来ないように調整します。





#### 4.5 床全体のレベル点検

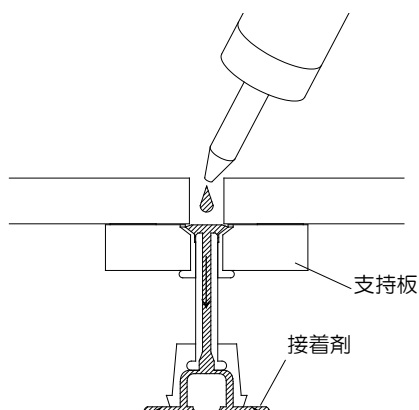
床のレベル調整がすべて終わったら床全体を歩いて、支持脚の「浮き」が無いか確認します。浮いている箇所は、支持脚がスラブに付くまで、ボルトを廻します。このとき、パーチの水平を保つようにしてください。



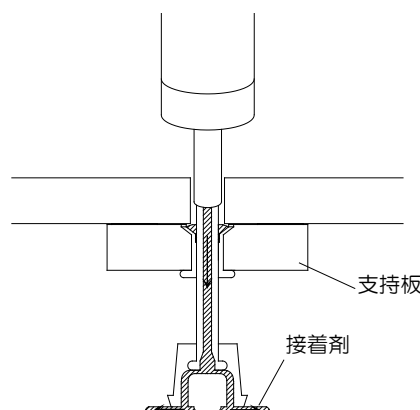
支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら、浮いている可能性があります。

#### 4.6 接着剤の注入

すべての支持脚ボルト部に接着剤を注入します。ボルト頭部に木くずなどゴミがある場合には必ず取り除いてから、接着剤を注入してください。



ボルトが支持板より上に出ていない場合



ボルトが支持板より上に出ている場合

ボルトが支持板から出る場合は、ボルトの頭部にノズルを挿して注入します。

接着剤は支持板とボルトおよびスラブと支持脚を接着します。

接着剤が硬化するには、1～2日くらいかかります。この間、床上に重量物を置いたり、歩いたりしないでください。

注入量の目安は TEJ-170 ～ 670 5ml

TEJ-730 7mlです。

※ゴムの周囲に接着剤が出ていることを確認します

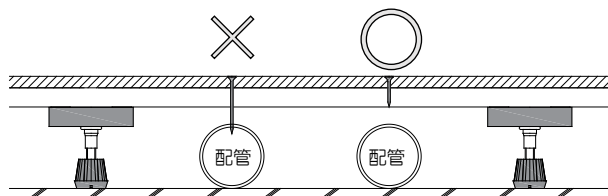
## 4.7 合板

合板はパーチと直交するように貼ります。

合板の継ぎ目はパーチの目地部から、100mm以上ずらします。

壁際は15mm～30mmすきまをあけます（なお、クッションフロア仕上げの場合には、隙間は2mm程度にします）。

ビスまたは釘を使用し、約200mmピッチで留めます。



**注意** 床下配管などをキズつける恐れがありますので、パーチをつき抜けない長さの釘をご使用ください。

## 5. その他

### 5.1 床に穴をあける場合の処置

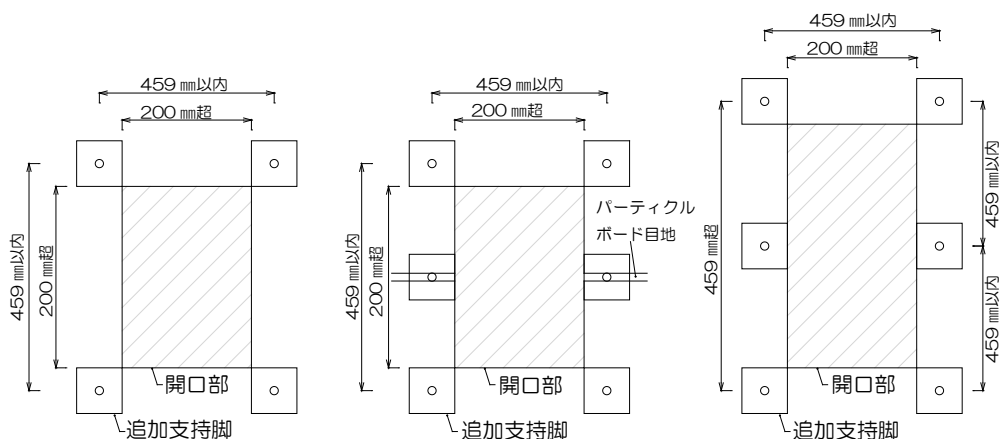
床下地に穴をあけると、開口部の大きさによってその箇所の強度が低下することがあります。

開口が200mmを超える場合は、以下の条件をもとに下図に示す追加支持脚を入れます。

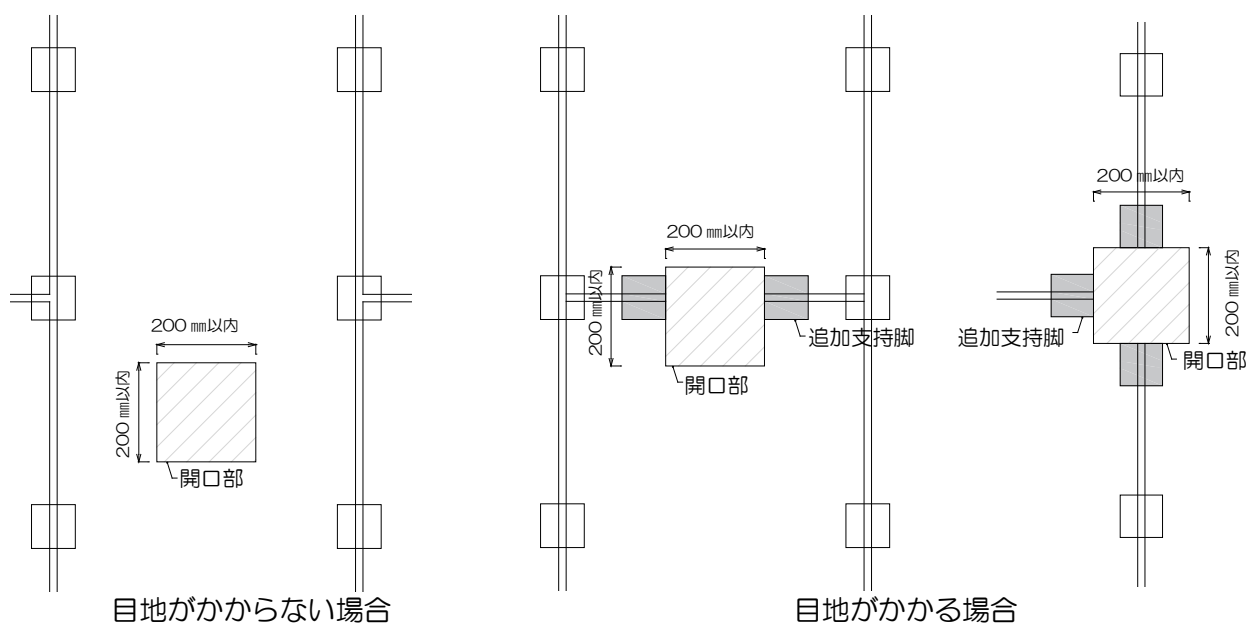
- 開口部の四隅
- パーチの目地部

支持脚の間隔が459mmを超える場合には、中間に支持脚を追加します。

**注意** 床に開口部を設ける際、丸鋸の切込みが残らないようにしてください。



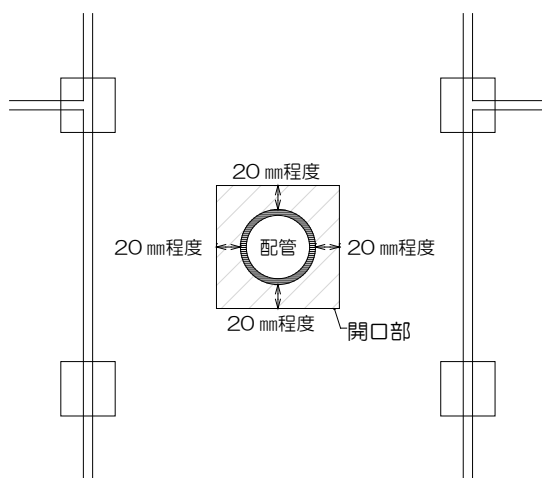
開口部に目地がかかる場合には、開口が200mm以内であっても支持脚を追加してください。



## 5.2 床下配管の立上り部

配管周りは、配管とパーチが触れないよう20mm程度離します。

**注意** パーチが配管に触れると、床鳴りの原因になります。



## 5.3 その他の注意事項

### ①水を使用する作業

- ・二重床の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

### ②資材の仮置き

- ・二重床の上に、資材を仮置きする場合は、1ヶ所にまとめず、分散させ、静かに置いてください。(目安としては200kg/m<sup>2</sup>まで)
- ・まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

### ③その他

- 二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- 二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。建築資材の落下などにより、パーティが割れる場合があります。
- 風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。
- 施工要領書に記載のない施工をおこなう場合は、事前にご相談下さい。
- 事業主様によっては、本施工要領書とは別に規定を設けている場合がありますので、ご確認の上、施工をおこなうようご注意ください。
- スラブから放出される水分が多い場合や漏水等により二重床下の空間で多湿状態（※1）が続くと、床材の反り、突き上げなどの原因になりますのでご注意ください。
- 自然現象・周辺環境等（※2）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合による商品の交換等には対応いたしかねます。  
（※1）湿度 65%以上になるとカビが生えやすい環境となり、湿度 90%を超えると数日でカビが発生する可能性があります。  
（※2）火災・地震・水害・落雷などの天災地変や公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

「仕様は予告なく変更することがあります。」